

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

第10回ワークショップ会議録

日 時：平成24年8月25日（土） 10：00～12：00

場 所：鎌倉市 第3分庁舎講堂

参加者：加者：公募市民：10名 関係団体：8名 計：18名 傍聴者：19名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤研究室）

事務局：鎌倉市役所：市民活動部産業振興課

加藤課長、近田課長補佐、根本事務職員

（財）漁港漁場漁村技術研究所

浪川職員、田島職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室院生2名

プログラム

はじめに

- ① 第9回ワークショップの議事概要

第1部

- ② 鎌倉漁業協同組合の将来ビジョンについて

第2部

- ③ 意見交換／鎌倉地域の漁業と漁港の将来ビジョン

終わりに

- ④ 前回のポイントと次回（第11回WS）のご案内

配布資料

第10回ワークショップ 次 第

資料－1：第9回ワークショップで出された主な意見

資料：鎌倉漁業協同組合提出資料

はじめに

① 第9回ワークショップの議事概要

「資料－1 第9回ワークショップで出された主な意見」について、事務局より概略説明を行いました。

その後、以下の通り意見交換が行われました。

参加者：今読むのを省略されていましたが、いきなり資料－1の[その他]冒頭に、「漁港建設に反対する人は自分の居住する前につくられるから反対ではないか、本音を知りたい」と出ていますが、これでは話が前へ進まないでしょう。漁港推進の方からの話もありましたよね。これだけいきなり載せるのはおかしいと思います。

事務局：ではその話も付け加えさせていただきます。

参加者：これは単なる意見なんですか。これを載せるなら他にもたくさん載せるものはあるでしょう。この三つに絞ったのはなぜですか。これを一番最初に載せる意味がわかりません。

事務局：これは単純に意見の出た順番です。

参加者：じゃあ、三つしか出てないってことですか。

事務局：いえ、そういう訳ではありません。

参加者：これは少しおかしいと思います。

事務局：ではその他の意見の部分を修正させていただきます。

参加者：三つじゃないでしょう。後ろにもあります。

参加者：じゃあ、四つだけですか。

事務局：対立項として出てきた意見を出させていただきましたが。

参加者：少しおかしいと思います。大体、これについて議論していません。出た後に、この話をしてもしょうがないと、反対の事だって言える訳ですから、そんなことを言ってもしょうがないという話が出ていましたよね。

事務局：こういった回答もありましたという事で、そういう訳ではない、という意見も次に載せています。

事務局：今頂いた意見ですが、この後、会議録をまた起こしますが、資料－1の主な意見からはもう少し線を引いたらどうか、というご意見がありましたので、ここのところはとらせていただいて、全体の流れがわかるように、会議録の中にはご意見として残したままで、というような取扱いでいかがでしょうか。

参加者：ここからは無くすのですか。あまり無くしてほしくないのですが。

参加者：だったら、これの反対意見も載せたら良いと思います。

参加者：そうそう、そうすれば良いと思います。

第10回ワークショップ議事録

参加者：それを言うんだったら、会議録の内容を全部載せてください。

事務局：この意見に関してのこの後の顛末ですね。詳細に調べて修正したいと思います。

参加者：別紙か何かつければ良いのではないのでしょうか。

事務局：やり方は検討させていただきます。

参加者：おそらく資料の作り方が問題で、全部載せた議事録だけ出していただくんだったら良いと思いますが「主な意見」とすると、何を基準に「主」だったかが、恣意的になるんじゃないか、というご意見だと思いますので、そこはこれから気をつけていただきたいと思います。

第1部

② 鎌倉漁業協同組合の将来ビジョンについて

鎌倉漁業協同組合（以下「漁協」という。）の将来ビジョンについて、漁業者から配布資料「鎌倉漁業協同組合提出資料」により説明を行いました。

第2部

③ 意見交換／鎌倉地域の漁業と漁港の将来ビジョン

F T：ファシリテータ（以下「F T」という。）の齋藤です。今日は前回の皆さんの意見を受けて、漁業者の方々にプレゼンテーションしていただきました。これから先は今の話を聞いて皆さんの感想とかご意見を伺いたいと思います。

毎回熱心に話してくださる人と、あまり発言はされないけれどメモは残して帰られる人もいますので、今日はもし嫌でなければ皆さんに一人ひとり発言していただきたいと思います。私は遠慮したいという意思表示をしていただければ結構です。それではよろしくお願いします。

参加者：今お話を聞いて、現状について大変生々しいお話で、良い情報だと思いましたが、ただ、逆にショックを受けています。今まで私が聞いたのは鎌倉漁協の皆さんは漁獲量も十分にあって収入もあって、ただ、危険なリスクがあるので港を造ろうと、鎌倉漁港対策協議会（以下「漁体協」という。）でああいう案が出てきたということです。だから将来をどうしていこうかということでしたが、今のお話をお聞きすると、企業でいえばもう破産寸前で、どうしようと、企業整理をしなきゃいけないというような状況の中で、いわゆる市民の資金を導入したらどうだろうかとか、魚価を上げたらどうだろうかとかいう話ですが、自由市場において魚価を上げるなどは現実的に難しいと思います。いわゆる今の日本の中小企

第10回ワークショップ議事録

業とまったく同じような状況で、競争力をつけるために生産性を上げなければいけない、そのために人件費を下げるために人を減らさなきゃいけない、あるいは国内では価格競争に勝てないから海外へ出て行くとか、いわゆる構造改革が求められています。今の漁業者のお話では構造改革よりも現状で成り立つようにみんなの知恵がほしい、あるいは援助がほしいというお話なので鎌倉の漁業再生をどうするかというむしろ大きな課題が今このWSの中に投げ込まれたなと感じられました。

漁業者：ちょっと誤解のないように。今例として挙げた売上は、私のもので、もちろん定置網をやっている方や、もっと大きい船でやっている方、シラス漁をやっている方というのは、もちろん売上の桁が違います。それをまた別の話にしたのは、これから参入する人たちはまず最初にそういう小規模な漁から始める訳で、それが私のレベルだということでお話しました。鎌倉の漁業者全員がその収入でやっている訳ではありません。

参加者：ただ長年の問題というところに出ていましたが、いわゆる資源が枯渇するというか、これから魚がたくさん獲れてくるというよりも、水揚げが増えないとか、魚価が低迷している、これは一般的な危機感としてあるのではないのでしょうか。

参加者：すでに、かなりお話を伝えていただいたと思いますが、私と同世代というか、同じような仲間と思えるような人たちが大変な時期を経ているのを聞いて悲しい気持ちもありますし、どうにか克服していかなくちゃいけないと思いました。ですが、一番最後に締めくくってある、「こういう状況を打破するためには最低限の条件として漁港が必要である」という点だけは私は同意できません。色々な立場があると思いますが、私はこの鎌倉の湾の中に。

漁業者：どこにあるのでしょうか。

参加者：ここに太字で「安定操業の最低限の条件である漁港建設という目標も」ということで、こう確認すると、若手の想いというところで文章の最後にあります。

漁業者：これは実際には今回は発表していない文です。

参加者：でもこれがあるということは。

漁業者：これはここに書いてあるように、若手漁業者と話し合ったときに、こういう内容で話し合いましたという事で、それが結論だということではもちろんありません。

参加者：でもこの書類だけが残ると若手の立場としては最低限これが必要だと意思表示している訳ですよ。

第10回ワークショップ議事録

漁業者：安定操業のためには。

参加者：おっしゃることはわかりますが、ここだけは私は反対です。

漁業者：なぜですか。

参加者：これまで既に去年から色々話していますが、一番リーズナブル、妥当な案としては和賀江嶋の辺りが、環境の点でも波の被害の点でも漁港建設には良かったのですが、今はだめですよ。だから今の和賀江嶋以外で湾の中にどこか造るとしたら、色々昔から出ている場所とかありますが、私はあそこは良くないと思っています。

漁業者：どこですか。

参加者：昔から言われている、あの、プールの前の坂ノ下

漁業者：坂ノ下の掘り込み案にも反対なのですか。

参加者：それはやっぱりお金の問題とかを考えると、私は市民としては良くないと思っています。

漁業者：市民としてはお金が掛かるから良くないという事でしょうか。

参加者：そうですね。

漁業者：何に対してお金が掛かるから良くないのですか。

参加者：税金の使い道として、という意味ではないでしょうか。

漁業者：では税金は何のために使えば良いのですか。

参加者：だって今もうあれでしょ、鎌倉市は。

漁業者：いやいや、そうじゃなくて、税金というものがありますよね。

参加者：わかりました、私の意見はここまでです。

漁業者：いや、今一生懸命説明したのに結局「あなた達は漁港を造りたいからこういうふうに言っているのだろう、私は反対なんだよ」と言われることに対して少し今、カチンときました。そういうことで話している訳ではありません。

参加者：そういう風に誤解した部分があることに対して、反対と意思表示しただけであって。

漁業者：少し感情的になって悪かったですが、要するに安全操業に港が絶対必要なのです。安全操業という意味ではです。港が造れるかどうかまだわからない訳ですが、安全操業のために今の状況よりは港の方が良い、というのはあるでしょう。

参加者：その議論で去年一年間やってきましたから、今おっしゃらなくても。それに対してそうだと言う人と、やる必要はないと考える人、議論してきた、議事録も残っている訳で。

漁業者：それは違います。今、費用対効果とか税金の使い道として今この鎌倉に

第10回ワークショップ議事録

漁港を造るのはどうか、という事に対して反対というのはわかります。そうじゃなくて私が言っているのは、安全操業のために漁港というものが必要ですよ、と言っているだけで、それができるかどうかという事を言っているではありません。

参加者：その話を、できる、できないとは別と言いながらも、造ることを前提のような書きものを残すのは反対と、こちらはおっしゃてるのだから、今まで出た意見の一つだと私は思います。

漁業者：ずっとワークショップ（以下「WS」という）の意見を聞いていると、漁港を造ることに反対だ、賛成だと常にそこに集約されています。

参加者：基本的なスタートがそこにあったからだと思いますが・・・

漁業者：いえ、まず大人にならなくてはいけないと思うのは、自分たちは社会人だということです。ある社会の仕組みの中で生活していて、何か社会が必要だと思ったときに、それに対して利益を得る者もいれば、不利益を被る者もいる、そういう存在なのです。その中で議論していかなければいけないのです。まさに私たちはそれを議論している訳じゃないでしょうか。

参加者：だからそれを議論した中で、港を造る考えの人と、代替案を考える人と、港は反対と考える人、それぞれの立場が表明されている訳ですから、今それをあなたが正しいとか悪いとか結論を出す必要はありません。今そういう意見の人がいると認知して、皆さんの意見を順々に聞いている段階だと思いますので、それで進めた方が話が進むと思います。

漁業者：じゃあ、進めてください。

参加者：私は言いたいことを言いましたから。

参加者：初めてと言っていいと思うが非常に詳しいお話を伺って大変勉強になりました。とりわけこの2ページに出てきた、あくまで漁業者の一部の案というものですが、この事業体構想は正直言って非常に面白いなと思っています。漁業に対しては全くの素人ですが、その素人眼に見ても、ハードルが結構高そうだなと思います。ただ本当にやる気があればできる、と私は思いました。

言いたい事は、例えば言い方は失礼ですがこのくらいの、あるいはこれに準じた発想で、一連の漁業をどうやって獲るどうやって売るどうやって加工するという流れがある中で、一連の流れのイメージがもう少し具体的に湧いてくるのであれば、当然何が必要なのかという話にむしろ行き着くべきであって、その方が個人的に言って納得しやすいです。さて、これが本当に成立するような話であれば、例えばどうすればこれが

第10回ワークショップ議事録

実現できるような、インフラも含めあえて言いますが、いるんだろうかという発想が非常に具体的にしやすいな、というのが率直な印象です。たぶん想いとか、行き違いの中で多分ざらついた話もあったかもしれませんが、皆さんの想いと近いところがあります。ただこの今やっているWSの中で、私は非常にこれは面白いと思っていますが、逆に漁業者がおっしゃるように、こんなことが本当に実現できるかなという意見をあえて持っています。結局「漁港」という言葉が出てくると色々な意味で過敏に反応する部分があるのは周知の事実なので、別に肯定もしなければ否定もしない、そういう言い方は問題がありますが、ひとまず置いておいて、こういう流れをつくっていけるのかなと思います。時間はありませんが、つくればかなり話は具体的にしやすくなるかなと思いました。非常に良い話を聞けたと思っています。

漁業者：例えば、私からはこれは言えませんが、漁港を造らないで、例えば浜から船を下すのを鎌倉の名物にして、それを一つの観光名物としてイベント化してという意見が漁港にどうしても反対だという人たちから一つのビジョンとして出てくれば良いと思います。

参加者：これは言う必要がないかと思うので、非常に耳の痛い話かもしれませんが、非常にご苦労されているスケジュール感がわかりましたが、それは正直言って色々な商売の人が同じような悩みをそれぞれ抱えています。否定している訳ではありませんが、皆それぞれの立場で苦労しているし、つぶれてしまう事業者も山ほど知っていますが、お互い良くも悪くも言いつこなしと思っているのです。実態はよくわかりました。もっと、一つの発想の中で浜から船が出る原風景が鎌倉の名物じゃないかという話は私も知っています。実はそれを言い出したのは松尾市長で、その辺が少しその話を知っていれば言い出しにくいかと思う部分もあります。あえて良くも悪くも押し出す必要はないと思っていますので言うてはいませんが、ただ単にオーディエンスとか見た目ベースの話で言えば、確かに静かな、例えば、早朝などにスーッと船が出ていく理想的な漁業も家から見えます。あれはあれで確かに思うものがありますが、それが当たり前じゃないというのも良くわかっていますので、そこはあまり言わないことにします。

参加者：若手の方々のビジョンをフローチャート等で示していただいて、誠にありがとうございました。感想的にいうと、漠然としたイメージとかそういうのは伝わってきますが、まだ何かインパクトとかやる気が伝わってきません。次の段階としては、例えば浜小屋をどうするのかと、共

第10回ワークショップ議事録

同の事業体で永久的に壊れないものを造るとか、イベントをどういうイメージでやるのかです。前に外国で成功している例も紹介されましたが、もっと一步突っ込んで具体的にこうやらなきゃいけないと思いますし、このWSは行政がやっている訳ですから、最終的には賛成か反対しかない訳ですよ。綱引きな訳です。推進派としてはもっと迫力のあるものをやらなきゃいけませんし、WSとは関係ないかもしれませんが、一方ではやはり本当にやる気があるのでしたら、税金を投入してやる訳ですから、市民に見返りがなければ行政はやりません。それは一つのイベントの開催だったり、今言った浜で船を下して集客していくというその視点も良いと思います。WSとは関係ないかもしれませんが、そこをもっと詰めて皆さんの活動の仕方として、観光協会と少なくとも漁協の承認を取って、そういうものを街頭に出して募金とか始めながら世論を喚起していくとか。目の色を変えると物事は回転します。漁業者さんはもっと目の色変えてこういうメリットがあるんだから、こうやるんだ、というような全面的にリーダーとして出てきても良いと思います。市民とすれば税金を投入してペイはできないものの、これぐらいは市にメリットがあり、我々にもメリットがあるとかでしたら賛成するでしょう。そんな印象を持ちました。

もう一つありがたかったのは、私は障害者の仕事を長年やってきましたので、こういう障害者団体に雇用を、ペイできなければ授産の場でも良いですが、そういう視点をもってくるというのはすごくありがたいと思います。そういう視野を広げていくと、事によるとゴーサインが出るのかな、という印象は持ちました。ただ漁業者さんの立場だと「事によると」じゃだめです。やるんだと、推進するんだ、やるんだと市民をどれだけ巻き込めるか、そういうひしひしとした情熱が伝わってこない、税金を投入するのでその半分ぐらいは市民に返す物がなきゃノーですよ。

参加者：漁業者さんのお話を聞いて、見えない部分で非常にご苦労されているんだなというのが良くわかりました。恐らくここに来られている方々の半分以上はサラリーマンの方が多んじゃないかと思いますが、私は自営業をやっており、非常に漁協の皆さんの生活に近く、早く寝たりはしませんが、収入面では非常に近い生活をしています。どちらかという身一つでお金を稼いでいる感じで、今私も障害を持ってしまったのでサラリーマンの方が羨ましいと思う昨今ですが、皆様のご意見をお聞きして鎌倉らしいご意見だなと思いました。こういうことで物事が進まないというのが私の印象です。良い悪いは別として何か一つの方角に向けて

第10回ワークショップ議事録

議論して、その中で、できないならできない、できるならできるという、進歩的な話し合いがもう少しできないかと思っています。漁協の皆さんの考えている取組みは非常に進歩的でこれが実現できると良いなと思っています。

参加者：私もまず漁業者の話が聞けたのは初めてなのでとても良かったです。こういう事が聞きたかったということも多く聞けましたし、ただ最初に少し角が立つかもしれませんが、これだけのコストをかけたからそれを財産として失われるのが怖いからというのは、それはサラリーマンであっても皆同じです。今日のWSの冒頭に出ましたが、自分の周りに造られるから反対なんじゃないか、という意見がここに残されてしまっていますが、そのマンションに住んでいる一戸一戸の人が自分のお金、ローンをこれから何十年も払ってその場所や景観を買った人たちがいる訳です。私たちのきっかけはそうだったかもしれませんが、話し合っているうちに色々意見が変わって来たり、柔軟になったりした訳です。これからまだ係わっていない何十戸の人から、その景観を買ったのに、という文句が出てくるのは当然だと思います。私たちは話がもうずいぶん進んでいるので、これでも理解している方だとわかってもらいたくて、漁業者たちの数以上の方があの場所の景観も含めて、お金を出している人たちが多くいるのであまりコストの事とか、仕事内容は、少し話がそれますが、仕事が大変というのはどの仕事も大変なことはたくさんあります。海が大変なのはもちろん承知で仕事をなさっているだろうし、満員電車に揺られながら仕事に行くことだって大変なんです。漁業者たちだけが大変じゃない、逆にサラリーマンの事もわかってほしいというのが一つあります。

このある事業体を起ち上げる、というこの形は私もとても良いと思いました。魚食が減っている、魚離れしているという話がありましたが、確かに主婦であっても魚をさばけない人がたくさんいます。実際キラキラと輝くアジがたくさん並んでいて、美味しそうとは思っても自分じゃできないから買えないとか、そういう人たちがとても多いです。こういう企業を立ち上げた中に料理教室、となると少し具体的すぎるが、そういう教える場面があったり講師がいたりとかするのも雇用に繋がると思います。そのようにやっていけたらこの形は私はすごく良いと思っています。例えば、三浦の漁協がやっている「はまゆう」という飲食店などがありますが、そこは漁業者の奥さんとかがそのとき獲れた魚を料理して食べさせたりしていて、東京からもわざわざ食べに来るぐらいになっています。まちでみ

第10回ワークショップ議事録

んなで計画してやったのだと思いますが、そういうのもあるのでやっていけないんじゃないかと思います。鎌倉の中でも小さい子がいながら東京に働きに行っている人たちも、もう少しこの形が確立すれば、地元で働ける所が増えればお母さんたちなどにとっても良いんじゃないかと思います。それぐらい大きい雇用の場になると良いんじゃないかと、この意見に賛成です。

それと、逆に漁港とかじゃなくて浜全体をスロープ化してすっぱり固めてしまって、原風景を活かしつつ、というのも有りだなと思いました。例えば日本では、山下公園のような場所で突然泳ぐことはないかもしれませんが、ヨーロッパとかだと、ビーチじゃなくてもコンクリートになった所で日焼けしたりとか、泳ぐというのが普通にあることなので、原風景を活かしながらそのままそこを海水浴場ということも可能なんじゃないかと思います。浜全体を覆ってしまう訳ではありませんが、今の形を活かしつつあったらあるんじゃないかと今の意見を聞きつつ思いました。

朝市の拡大も、葉山などでもとても有名になっていて、ほとんど半分以上の人が東京から来るそうです。名物もいくつかあり、それを目当てに朝早く来ないとそれが買えないからと泊りで来る人も多いそうです。葉山のように地元の近隣でも成功している例もあるので、その辺を少しずつ取り入れながら、この形ができたら最高に良いなと思います。

参加者：貴重なお話をありがとうございました。このWSが始まったときから鎌倉の漁業者さんの方ってそんなに人数が多くないと思っていました。30人とか50人規模ぐらいかを見ていて、それに漁港を造るとなると、やはり少数の人たちがどういう事業をなされているのかすごく気になるころでしたので、こうやってプライバシーにかかわる部分までお話して下さったのは、参考になりました。

この新しい鎌倉の鎌倉人による事業、こういうのがどんどん色々な所で起こっていくのがこれからの日本にとってすごく重要ではないかと思えますし、鎌倉の人間として何かお手伝いできることはないかと思えます。印象として今はまだ、漁業者さんの個人的な考えの部分が強いかなと思うので、このWSが終わった事でそれが立ち消えにならないように、例えば次のWSがあるならこういった事を中心に据えたものになるようお願いします。

やはり漁港の話になってしまいますが、このWSが始まる時に、漁港を造るか造らないかみたいな話だったので、鎌倉の漁業はどのようなものか、日本の漁業はどのようなものか自分なりに色々本を見たり調べましたが、や

第10回ワークショップ議事録

はりそのとき出てきたのは、日本の沿岸漁業は瀕死の状態であるということです。じゃ、瀕死の状態将来性がないのに漁港を造るのかとすごく大きな疑問があり、このWSが始まったときに「儲かっているんですか」という失礼な話もしました。今日のお話を聞かせていただいて、やはりまずは産業としてきちんとした将来性を確立する、こういう事業体をつくり出して、ビジョンをはっきりさせることが、最初の話じゃないか、という思いを益々強くしました。

参加者：このWSに最初に参加したときは、私は漁港を造るのは反対という気持ちがあって参加していましたが、色々意見を伺っていくうちに、投げやりな「どっちでも良いか」ではなくて、もっと面白くなるんじゃないかの可能性を感じた「どっちでも良いか」でして、このWSの結果がどこにいくのかまだ見えないし、これによって市の方にちゃんと上がるかどうかも見えないところがあるので、単純にこのWSに参加して良かったという印象があるのは、漁協の人たちの意見とここに参加している市民の方たちそれぞれの意見が対立することが面白いと思いました。

その中でそれぞれの立場で、例えば魚を獲ることも知ることができたし、ずっと住んでいる人たちの意見も聞けたし、観光も含めなきゃいけない、と色々な意見がある中で、鎌倉に住んでいる事はすごく複合的で、漁港を造るだけというよりは、もっと大きい目で見ないと前に進まないんじゃないかと思っています。極端な事を言うと、魚を獲るという事をイベント化する、私は小さな子供がいますが、地引網とか体験できるじゃないですか。それを体験したときに「ああ鎌倉で魚が獲れるんだ」と純粋に思いました。市民の中でも知っている人と知らない人がいて、市民がみんな参加できるものがあって、それこそ小学校の学校行事に組み込んでしまうくらいの強引さがあってもいい良いと思います。そうするとその学校行事の中でどの学校を卒業した鎌倉の市民も、学校のイベントでこういうのがあったんだと大人になっても話すし、鎌倉って面白いことやってるね、という話になります。それが段々外に広がっていくと、鎌倉って良いまちなんだということにもなるだろうし、魚を獲る事に専念したい方もいらっしゃると思いますが、船に乗せて沖まで連れて行ってあげて、パドルボートをやらせるとか、ヘリスキーでも良いですが、そういう発想も良いんじゃないかと思います。鎌倉市民が勝手に楽しんでいる事に、他地域の人も面白そうだなと寄ってくるのが観光かなと思っているので、単純に漁港とか魚を獲ることとか風光明媚を守るとかがどうとかいうよりは、もっと全体的に鎌倉って100年後どうなっているのが良いのか、みたいところま

第10回ワークショップ議事録

で考えて良いんじゃないか思いながら、WSに参加しているのが現実でした。

漁業者：観光と鎌倉、あるいは観光と漁業というのは、これからの漁業を考えるときに切り離せないキーワードという気がします。観光に来られる方をどう漁業の中に、あるいは水産業の中に取り込んでいくか、あるいは水産業の消費者として取り込んでいくか、という事も含めて可能性はあると思います。先ほどジリ貧じゃないかという意見がありましたが、確かにこの現状を見るとどこの浦も変わらないように獲ってきたものを仲卸に売ってお終い、というルートができてしまっています。このルートはどこかでやはり改革しなきゃいけない、変えていかなきゃいけない、それではジリ貧になるのはわかっています。じゃ、ここは鎌倉なんだ、年間何十万、何百万の観光客が黙っていても来る場所だ、ということがあります。この観光客をどうやって魚に目を向けさせるか、という事を考えていくことが実は私たちにとって一番大切なことじゃないでしょうか。面白がってもらおうという事、それを市民が一体となってやってみるのはどうか、という事だと思います。

これは冗談として以前話したのですが、100万人の人が1人10円ずつ寄付してくれれば1000万円だと。簡単な言い方をしてしまうと、まず鎌倉はそういった条件として良い条件があるんだからそれをどうやって利用していくかという事をみんなの知恵を借りながらやっていきたいと思います。今の彼が言った事も含めてその可能性はあると思います。

参加者：毎回たくさん意見を出させていただいています、今日は逆に色々な方の意見を聞いて、もちろん漁業者の方のプレゼンも素晴らしかったし、他の方の意見も聞いて非常に貴重な機会だと思っています。初めに私の立場ですが、私は地元住民でサラリーマン、ただサラリーマンでも中堅企業の経営に近い仕事をしています。そうすると先ほどの意見のように毎日、競合他社との競争ですとか、社会の中の揉め事みたいなものですか、単純に利益が落ちてくることに対して、非常に危機感を持って日々過ごしている人間です。地元住民という事に関しては、先ほど冒頭で自分の居住地の前に造られるから反対なのではないか、という話があって、これは非常に頭にくるというか、私個人としてはそうじゃないんだという想いがあります。地元の住民と話していても、論点は二点なんです。自分の居住地の前だろうが本当に必要であれば、造られてもしょうがないというか造っても良いと思っています。

なぜ反対しているかという一つは、皆の血税だからです。我々だっ

第10回ワークショップ議事録

て自分が経営している会社が潰れるとなったときあるいは業績が伸ばせるというときに、税金を使えば本当に楽です。それができずに、むしろ税金を払う側にいます。その税金の使い道に対してはすごくセンシティブになっていて慎重に考えていただきたいという事が一点です。

あとは環境の問題、この二点で反対しているの、自分の家の前にできるから反対しているのではない、ということのをそれこそ主な意見に毎回明記してほしいほどです。毎回言っているのですから。その上で、いただいたビジョンに対しての私の意見は、非常に良いなと思っています。何が良いかと言うと、やはりこの出資利益配分、市民を巻き込んでということで、こういう形であれば、例えば私が漁業者さんの事業を応援したいと税金とは別に一万円出資しますとか、この事業に賭けてみたい、というときに自分の意志でそれを応援するとかお金を出すとかできるので、こういう形は非常に素晴らしいと思います。ただこれからぜひ発展させていきたいと思うときに、これってあくまでも組織体だと思います。何かを進めていく、あるビジョンに到達するための組織体という位置づけだと思いますので、組織体に意思がある人がちゃんとお金を払って事業を応援するというスキーム自体は私はすごく賛成ですが、これから若い漁業者の方たちがもっともっとこれを通してどうありたいんだという、それこそビジョンを作っていくと良いと思いますし、必要であれば、まさにこのWSそのものがそういう議論をすれば良いのではないかと思います。そのビジョンってどういうものを作れば良いのかというと、それこそ色々な企業がビジョンを作っているの、そういったものを参考にされたら良いかと思いますが、現状認識が大切だと思います。聞いていて思った事は、例えば基本的に漁獲高は増やさずに単価を上げていくなれば、それがどの程度できて、鎌倉の漁業というものの全体のどれぐらいの、今売上をそれをどれぐらいまで伸ばす、それは主に単価を伸ばしていくんだとか、あるいはどこかに書いてありましたが、鮫とか今まで使われていないものに付加価値をつけるだとか、あるいは今すごくロスがあって、ロス率を改善して売上高に近づけるんだとか、あるいはおっしゃるように中間マージンがあって、中間業者さんもうらっしゃるのでまたセンシティブな問題にはなりますが、そのマージンというものを取り込むだとか、いくつか具体的な数字で、何億円か何百億円か売上を上げていって、そうすると結果的に、皆さんの所得も上がっていきます。そうやって漁獲高が上がっていくという事は、実は市民の中で鎌倉のものを食べている人が10%とか20%とかしかいませんでしたが、それをやることによって30%とか40%とかに上がるんだと、あるいは今ま

第10回ワークショップ議事録

で調理ができなかった方が調理ができる割合に高まっていくんだと、そういうものをきちんとビジョンの中に盛り込んでいければ市民団体の応援というものができてくると思います。そういう形で議論を進めていくと良いんじゃないかという事と、後は、市民・市民団体に限らず、私はそういう関係の仕事も少ししているのですが、ソーシャルファンディングとか、鎌倉が好きな人はたぶん市民だけでなく、都内とか色々なところに居ると思います。この活動が認められるとそういう人たちも少しずつ出資するとか応援するという様にできてきますので、夢物語ではなくてこれは真剣に考えて進めた方が良いと思います。

もう少し話したいですが、進めるにあたって、ぜひ私が言いたいのは、先にビジョンがあるべきで、それを皆で検討したらいいんじゃないかというのが一点。そしてビジョンのためには現状分析を数値化して示すことが大事なのではないかということ。三点目に言いたいのが、事業体について夢物語と言っていますが、現実的にできるのではないかという選択肢もあります。例えば財政的には難しいと書いてありますが、どういう仕組みかわかりませんが、漁協自体がこれを正式にやるとして、それに対して何らかの資金を広く集めるという方法もあるでしょうし、いくつか例も出ましたが、三浦とか葉山とか他の漁協と連携して漁協の組織をもう少し基盤をしっかりと大きくするという形でできるという案もあると思います。この形で鎌倉として市民を巻き込んでやる形もありますし、いくつか現実的に考えていけば、この方法ができるんじゃないかと思っています。それをぜひ検討していけばと思います。最後に言いたいのは二点で、大きい話で言うと、前回のWSで私はこのWSは終わりにしても良いのでは、と話していて、なぜかというやはりビジョンが先だと。鎌倉水産物、鎌倉水産物流通、あるいは市民の水産資源の利用、広い関係のビジョンをきちんと作ってから、漁港の話となるのではないのでしょうか。少なくとも漁港については今の時期は無理がある、と結論として出ていると思っています。今回改めて、漁業者さんの話もあってこういうもっとビジョンを先にしっかり話す、それはこの場なのか違う場なのかはわかりませんが、それを初めにやるべきだという思いはさらに強くなりました。細かい話で言いますと、素朴な疑問として小坪なり腰越なり、近隣の港なり漁業者の方ともっときょうりよく協力すれば今の食品の安全性を含めた課題とか、水産物を普及させようという話とか、もっとできるのではないのでしょうか。素朴に疑問として思いました。

漁業者：せっかくここに来ているので、若い漁業者たちに聞きたい事があつたら

第10回ワークショップ議事録

どんどん聞いてください。

参加者：まずこういう機会にこういう話が聞けて、皆さんも来ていただいてこうやって話をしていただけたのは非常に良かったな、ありがたいなと思っています。忙しい中集まっていたいただいてありがとうございます。

今この話を聞いて、そもそもこの話を一番最初にやるべきだったのではとまず思いました。行政の作った資料で行政の人が話すよりも、どこまでオーソライズされたものかわかりませんが、こういう現場の声、こうやって生の人たちが来て、こういうことを言う、というのがなぜ最初じゃなかったのでしょうか。とはいえ、時期的にはもう後ろの方ですが非常に良かったと思っています。

挙手して話せと言えば話すようなことじゃありませんが、感想としては、個人的な話ですが、自分も東京で父親が町の電器屋を細々とやっています。皆さんと同じような個人事業者です。今日も朝の9時から夜の9時まで一人で暑い中、屋根に上がったりエアコンの室外機をいじったり、色々やっています。少し羨ましいなと思ったのは、そういう町の電器屋というのはどんどん減っていき、残された電器屋だけにはっきり言って儲からない仕事ばかりがやってきます。儲かるというか、品物を売るといのは皆量販店行ってしまうので。月収は20万円ありません。今自分がそれを継ぐか継がないかという状況なのですが。もう父も七十歳近いです。そういう月収も20万円ない、命がけの仕事です。この暑い中、休みもほとんどなく、本人曰く「町のインフラだから休む訳にいかないんだ」とやっています。ですが、行政だろうが、市民の方だろうが、誰も助けてくれません。例えば安全です。屋根の上に安全に室外機を上げるために、何か補助が出るかといえば一切出ないし、やるなら自分たちで買いなさいという世界の中、こういうのを見てしまうと、少し羨ましいなと思うのが正直な感想です。

現実的な話として、今お話を聞いていると、漁業者の皆さんの夢というのを簡単にまとめると、一つは安全の問題だと思います。もう一つは生々しい話ですが、売上とか経済的なことだと思います。安全という意味であれば、これは何年先とかじゃなくて、今すぐの話だと思います。今すぐできることを足踏みしているのではなくて、とにかくできるものは先ほどの話とは違う意味で死にもの狂いというか、前のめりになってやったほうが良いと思います。それこそ今やるべき問題だろうと思います。もう一つ売上、経済的な話はどうやら漁港がどうのということではなくて、さっき漁業者さんが言っていたような話は本当に去年の最初に出ていた案の

第10回ワークショップ議事録

一つだと思えます。流れとしては、近々の問題ならまず安全についてはとにかく今できることをすぐにやる、話を始める、先ほど近隣とのとかありましたが、できることをとにかくやる、経済的な事に関しては先ほどの良い案があるのですから、それをやり、去年などは直販が厳しいみたいな話でしたがそういうのを乗り越える事も含めて、外食だとか直販だとか朝市だとか、建物を造っても良いと思えます。そういうのをやってそこがすごく盛り上がり、そういう形ができましたと、鎌倉のまちにそういうのができて、皆がやってくるとなったとき、その段階で漁港というものを再度考えれば良いのではないのでしょうか。漁港なんて今の漁対協の案で考えられていると思えます。この夢が大きくなって、もしかしたらこんな規模じゃ済まないかもしれません。腰越みたいの後からどんどん増やしていくのではなくて、このときにもっと大きくなっているかもしれませんし、そうしたら、また再度大きくしなくちゃいけないかもしれません。だったらまずは先ほど出ていた案、これは皆さん反対するような人は多分いないと思えますので、そちらを進めて鎌倉の漁業、鎌倉のまちの観光の一つとして、漁業というのをちゃんと確立してから考えるべきじゃないのでしょうか。

参加者：漁業者さんの具体的な仕事の状況とか、若手の方の話を伺えてありがとうございました。

税金を使うのはどうかという話もありましたが、現状を見ていると放っておくとこの産業は厳しくなってもしかすると衰退してしまうかもしれない、そういう可能性や現状があると理解しています。では、鎌倉に漁業が無くなって良いのかどうかというのが少し自分の頭に浮かんで、自分としては第1次産業があるというのは鎌倉の特色でもあるし。この第1次産業を、例えば税金が血税だからそんなものに使うなだとか、他の人も同じ様に苦勞しているから、という様にしてそんなの勝手にやりなさいと衰退していくのは何か。鎌倉の漁業も長い歴史があります。それが単にお金の問題でできませんというのは。漁業というのは文化的な側面もあるので、税金が血税だからもったいない無駄だからと切り捨てられてしまうのはなにか少し。自分は少しそういうのは割り切れません。比較ですけど類比的に言えば、文化的な活動はもう国や市で助成するのはもうやめようというような話に聞こえてしまいます。税金がもったいないからと、ここで税金を使わなくてもきつとどこかで使ってしまう。漁港分の税金を減らしたからって我々の税金が減る訳ではなく、他に使われてしまうんだから。漁港の建設費用が市の歳出の何%にあたるかは知りませんが、1%とかそれ以下なら別に費やしても良いんじゃないかと思えました。マンショ

第10回ワークショップ議事録

ン建設が理由で反対という過去の。そういう方も住人でいらっしゃるという話ですが、全戸数で百戸か五十戸か知りませんが、その人たちのためにこの一つの産業が無くなるというのも。

参加者：誰も無くせとは言っていない。

参加者：ただ、可能性としてはここまで来るのは衰退しそうだというのがあります。それもなんか少し、というのが疑問です。

漁業者：少し余談になりますが、東日本震災で多くの漁業を生業としている地域が損害を受けて、それをどのように改修していこうかということが進められていますが、要するに漁業は漁業組合員が専任的というか優先的、排他的にと言っても良いですが、漁獲ができる組織としてまず漁協があり、漁協に対して漁業が認可されているという現状です。これを一般企業に開放しようという動きがありました。疲弊している漁協に対して裕福な資金を有している企業が、漁業の漁獲をするということに参画することで、活性化を早めようという議論があったことに対し、多分これは反対で立ち消えになったと思いますが、このときになぜ反対したかという多くの論調は、第1次産業を経済の事だけで話してはいけないだろう、という論調でした。第1次産業を経済的な利益の効率という事だけで話したら、文化が失われます。一体日本人と言うのは何なのだ、あるいは地域文化というのは何なのだ、と言ったときに、それはやはり気候・環境・風景、そして食べるもの、そういう意味で第1次産業というのは常に文化の基本にあります。それをないがしろにして単に経済問題にしてはいけない、ということがあったと思います。大分議論されて立ち消えになって。確か時限立法にするということを提案していたと思いますが立ち消えになりました。良かったと思っています。今おっしゃられたように第1次産業は経済だけでは語ってはいけない問題だと思います。

参加者：マリンスポーツ連盟という立場でものを申し上げますと、我々の会員の中にも漁業者の方もいますし、連盟の係長も漁協組合員の方でなっていますので、賛成、反対というのは言えませんが、我々の中でも賛成とされている人と、反対だと思っている人と、二つに分かれています。

大体否定的な考え方の人は、一つは環境問題に対して厳しい方、というのが一つ考えられます。もしくは、自分の使っているゲレンデの前に漁港ができたら困る、先ほどのマンションの問題と同じような。この二つが主な原因だと思います。

だからここでマリンスポーツ連盟の立場としての意見は言う事ができません。ただし、私個人としての考え方は、鎌倉市は鎌倉の海のことをあ

第10回ワークショップ議事録

まり考えていないと思います。我々も漁業者と同じように鎌倉の海でもって商売をさせていただいています。第1次産業か第3次産業かの違いで補助金が受けられるか受けられないかの違いはありますが、同じように海を使って商売をしています。その観点から考えると、先ほど朝、最初に話がありましたように、今日は台風の波が入っていて、サーファーと漁船の出入りの問題というのが、必ず台風の時期になるとあります。

そういった問題をどうやって解決したら良いかと言いますと、サーファーは入るな、ここにはサーファーは入らないでくれとなるか、もしくは、漁業者の方が出るな、ということになってしまいます。そういった色々な問題は、私が鎌倉に来て30年ほどになりますが、その中で考えたのは、鎌倉の海を良くしていくのは自分たちから積極的に鎌倉市にお願いをしていかなきゃいけない、というのを良くわかっています。私の考えでいくと、浜に漁師小屋があるというのがまず一つの問題で、それが無くなれば先ほどのサーファーと漁業者の問題は一つ解決します。それから海の家を含めた浜の利用、海水浴場の期間中は7月、8月の二か月間ですが、この間マリンスポーツというのは、材木座と坂ノ下の両端からしか出入りすることができません。一番込んでいる時期は浜が二倍ぐらいの人であふれてしまう場合もあります。そういうことも含めた上で、鎌倉の海の事を常に考えますと、港を造っていただいて、そこに漁業者さんたちを全部集約してもらって鎌倉の海を、浜を、もう一度きれいにしていただきたい、というのが我々の連盟は思っています。昔から漁港の問題というのを私は知っていますが、やはり費用がかかるということで、反対される方がたくさんいるのは知っていますが、環境の問題に対しては埋立式でいけばこれは解決できません。お金は掛かるが堀込方式、これでもし港が造れるのであれば漁業者だけでなく、住民の方も一番問題なく解決できる方法だとは思っています。ただお金だけだと私は思っています。

参加者：今日は漁業者の方たちと会えてとても良かったです。特に、●●●ちゃんに会えたのがとても良かったです。なぜ良かったかという、可愛い子に会えたというのがありますが、こういう人材が鎌倉の漁業者の中にいらっしゃるといのはとても強みだなと思います。

漁業者さんの言っていることは、鎌倉の漁業をもっと「ブランディング」と私たちは言うのですが、要するに有名にしよう、という話だと思います。例えば「●●●ちゃんのアカモク」といって、ただのアカモクじゃなくて、瓶にこうやって、「●●●ちゃんブランド」って売らただけで一つのブランディングになります。とにかく鎌倉の漁業というものをどうしたらブラ

第10回ワークショップ議事録

ンディングできるかです。鎌倉やさいはもうブランド化されて結構経つじやないですか、なぜあれがブランド化されたかと聞くと、一つは鎌倉の農家の方はレストランのシェフたちから「あれ作ってよ」と言うとその種や苗を買ってきて、他の農家が作っていないような、外国の野菜とかハーブだとか鎌倉の畑にしかない野菜をたくさん作っているのです。つまり消費者の意見を取り入れているということ、それは結構ブランド化には基本的に重要なことかなと思います。どうやって聞くかは色々考えていきたいですが、そういう生産者側の論理というか生産に携わっている側の論理だけではなくて、消費者側の意見をどうやって拾っていくのかも検討していきたいと思いました。

色々なお金の問題もあると思いますが、私は漁港の問題というのは、デザインで解決できる問題だと前から思っていて、目的はブランディングだと思うので、先ほど少し出かけましたが、船を押し出すというのは大変ですが、それを逆に売り物にしたら良いんじゃないかという話だと思います。例えば酒造りです。大きなブランドも日本にたくさんありますが、地方の小さな酒蔵だけど、純米酒や吟醸酒の美味しいものを造って、量は少ないが高く取引されている日本酒があります。大きな酒造メーカーはステンレスの機械化された蔵でつくっていますが、昔ながらの木の樽を使って温度とかの管理がものすごく大変でそういう杜氏とかがNHKとかのプロフェッショナルとかに出てきて活躍しているのを見ると、あそこのお酒飲んでみたいと思うじゃないですか。

つまり結構苦労しているところを見せると、付加価値がつくような気がして、楽なんだよこの漁港はとなるとかえって、効果が減るのではないかと思います皆さんのご苦労は大変だと思いますが、楽なものを目指しすぎない方が、それよりはとにかくブランディングするには何が効果的なのかと、少しドライな目で見られないかなと思います。少し苦労ですが、鎌倉という環境とか鎌倉という風景を守るためにも、そういうことも鎌倉の漁業者は大切だと思っていますので、過酷な労働にも我慢して、魚を獲り続けているんです、という方向性を私たちも含めて考えていきたいと思っています。そのためにあまり楽じゃないですが、最低限の風雨から守れる漁港で、観光の資源にもなって、というので、私が考えているのは、「新和賀江嶋」をつくる。どうやら和賀江嶋をいじるのは文化庁の方針もあって難しそうだということが今回わかりました。だったらもうひ一つ造ってしまえば良い。和賀江嶋は昔は文献によるとこうだった、今ある和賀江嶋はもう崩れていて本当は歴史的価値が無いのに、文化庁のつまらない政策

でいじれないのなら、鎌倉時代にあった和賀江嶋は石積みでこういう感じだったんですよ、最低限の機能は持たせますが、あまり楽じゃないけども観光のためにはこういうデザインが良いんじゃないかというのを、多分日本にも世界的にも例は無いですが、例が無いとできないのかと、そういうことではなくて、これからそういう設計する人を人材を集めて作れば良いんじゃないかと思います。というようにデザインで解決できるのではないかと最初から私は思ってこのWSに参加していました。

漁業者：木の樽で造った酒と、ステンレスで自動化された酒とでは確かに木の樽に杜氏が漬け込んだ酒の方が何となく美味しそうだし、というのはわかります。実際美味しいでしょう。でも、残念ながら樽をこいで木の船で獲った魚とプラスチックの船で獲った魚は一緒です。苦労の味がするかどうかというのは、少し当てはまらない気がします。言っている事はわかりますが、例えば今、ナイロン製の網で魚を獲っています。昔は綿だったんですけど、綿の網じゃなきゃ掛からない魚がいるとしたら、それは良い。でも掛かる魚は一緒ですから、中々難しいかなという気は少しします。私は先ほど、浜から押し出すのを「大変だけどそれを売り物にしたら良い」と言ったのは、少し誤解があって、例えば私たちがこういうビジョンを出したのに対して、どうしても漁港はいやだと言う人がいるのでしたら、代案のビジョンとして、そういう船を押し出すというのを観光の目玉にして、要するに、水産業そのものを活性化するビジョンを出してみろ、というぐらいのつもりで言いました。それはあるかどうかわかりません。私は、敢えてそれを、毎日 365 日観光の目玉だからと言って続けるのは少し大変だと思います。週に一回当番を決めてやるぐらいなら良いですが。ほんとに大変なんです。毎日満員電車で揺られて行くのは大変、その通りです。資金繰りが大変、その通りです。皆苦労しているのはわかっています。そういう意味でここに、漁港がほしいときに、安全操業がしたいということと、物理的な意味で効率的に仕事がしたいというように二つに分けたのは、そういうことです。二番目の物理的な意味で効率的な仕事がしたいというのは皆同じでしょう。私たちにも正直言って楽したいという気持ちはあります。それだけではなくて、今の安全ということに対してこの安全だけは何とかなしたいという切実な思いだけは、何というか、毎日の通勤電車のホームと電車の間が 1 m も開いているのはすぐ直してくれるでしょう。そういうような意味なんです。満員電車の冷房をもっと効かせろというのは、私は少し違うと思っていて、そういうところをわかってほしいと思います。

第10回ワークショップ議事録

参加者：今、漁港がどうかではなくて、この事業には結構皆さん賛成だという意見はありましたから、これを中心にもっとこういう話を、先ほどもありました。最初に漁業者さんの話を聞いて、最初にこういう事をしたかったです。そうすればこんなに時間を無駄にしなくて済んだのにと皆思っています。こういう話を、皆、したかったです。

漁業者：こういうところで話し合うというのは、どっちが先かということなのですが、文化的な建物、文化的な何か、イベントをやるための建物を造れば、文化的な催し物がたくさん行われるという様に考えがちだった時代があります。でも、今そう考える人はいません。漁港を造れば水産業が盛んになって、私たちも潤うし、鎌倉市民も潤う、というのはそういう論理で話されていたことだと思います。この何十年も話されてきたことは、嘘ではありません。過去の漁業行政はそうやってきました。でもどこかでこれを見直さなければいけない時代が来ていて、それは多分20年くらい前に見直さなければいけない時代が来ていた。それが今までずるずるとここまで来ていますから、これをどこかで断ち切って、そうじゃないんだ、箱を造ってもついて来ないんだと、むしろ箱の中のものをきちんと造って、それでは箱を造ってください、というのが論理的な事なんでしょう。

参加者：質問が二つとお願いが一つと技術的な物が。

安全面でお話の中に、遠浅海岸なので船の出し入れとありましたが、それは堀込式であろうと、突出し棧橋式であろうと同じ事ではないのですか。遠浅の海岸は砂地が続いていますので、船が来るときはリスクがあります。それでは突出しが前にあれば少しは前から船がスタートするから良いのでしょうか。

漁業者：漁港では必ず漁船が安全に係留または航行できる水深を確保するために、海底を掘り込む訳です。例えば埋立ての案に仮になったとしても、突堤を造って突堤の端は水深3mから4mになるように海底を掘り込む訳ですから、そう意味ではもちろんそれは安全ですね。

参加者：次の質問です。今日の漁業者さんの話にも私も賛成だという方、手を挙げて。こちらの方でどうだと聞いたら概ね65%は好意的です。

漁業者：それは感じますが、別に手を挙げてもらう必要はありません。

参加者：それならその方向で次のステップへ議論しないと、1年半をまた徒労にしますよ。今日は生身のお話があって、本来これは文字や活字でレポート読んでふんふんじゃありません。今日のように話を聞いたら、結構皆さん納得がいった部分があるでしょ。今日のお話を事務局がどういうレポ

第10回ワークショップ議事録

ートを上へあげてくれるか、問題点をどのように詳細に説明してアタッチするか、次回が最終回に向けての大きな分かれ目になると思います。自分自身は今日のようなお話であれば、徹底的に協力します。物理的にも支援を、知識も、そして人脈も。

F T : 時間を過ぎてしまいましたが何か他に意見はありますか。

漁業者 : 今日初めて参加しましたが、前回までのWSは喧嘩別れだとか聞いていて、今日来るのはどうしようかと気構えていましたが、今回参加した感想は非常に楽しかったです。楽しいという表現があっているかどうかわかりませんが、また参加したいと思うWSでしたので、ありがとうございました。で、●●●さんだけが発言するのは独壇場で、他の漁業者が発言しないのはやる気がないのではと思われても困りますので、今回こうやって発言します。この前、今回こうやって参加するという事で、飲み会がありました。それは若手が皆で集まったのですが、集まればやはり皆それぞれ思いがありますので、お酒が入っているのもありますが、色々な話になりました。亡くなった●●●さんがいたころから新人と呼ばれる人たちを集めてやっていますので、新人たちと呼ばれる面子はとても仲良くやっています。これから鎌倉をどうやっていこうかと色々考えていますので、それも踏まえて今後またWSで話していければ良いと思います。後、先ほど学校の行事と、子供たちを乗せて観光にもっていくとか、船に乗せてという話がありましたが、自分が思ったのは、港が無いので、大きな船にまず乗せる事ができません。子供たちを運搬するにはまず港から乗せた方が安全ではないのでしょうか、というのが率直な意見です。勝手な意見ですが。

もう一つは、震災。私の田舎は石巻です。被災地に行かれた方はわかると思いますが、堤防と言う話は少し違うと思いますが、港ができれば自分の家の前で堤防の役目をして、守ってくれます。東日本大震災くらいのレベルではとても守れませんが、安全という面でも守ってくれるのではというのが、石巻を見ての自分の意見です。それから3か月ほど仕事をしていて思うのは、新築の家が増えて引っ越しをしてきた子供がとても多いです。清和由比のような老人ホームとかもたくさんありますので、坂ノ下に堤防でもあれば多少なりとも安全が確保できるのではと思います。漁業者としてではなく個人の意見です。5年前鎌倉に来る前、漁業者になる前は私もサラリーマンをやっていましたので、言葉足らずだったらすみません。わかっているつもりではいます。今日は貴重な時間をありがとうございました。

第10回ワークショップ議事録

漁業者：若手漁業者の中で、発言しなかった者が何人かいるので紹介します。ここ5年のうちに組合に参加した若手です。

F T：有益な話も伺えましたので、議事録に残したいと思います。事務局から前回のポイントと次回の説明を行います。

終わりに

事務局から次回の開催予定、閉会挨拶を行いました。